（別紙4）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2491300196		
法人名	株式会社 オルゴール		
事業所名	グループホーム 奏		
所在地	三重県名張市安部田2309番地		
自己評価作成日	令和元年9月10日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=2491300196-00&ServiceCd=320

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 1 年 10 月 23 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当事業所の地域は文化行事に力を入れており毎年秋の文化祭へグループホーム奏並びに併設するデイサービスと共に1区画作品展示ブースを頂きそこへの作品出展へ向け1年を通しての創作品を入所者様、職員一緒に手掛けています。また、施設の名前にちなみ音楽療法を積極的に取り入れ月に1度ハーモニカ演奏会（ボランティア）の開催とデイサービス共同での音楽セラピーを実施しています。そして今年4月より地域医療連携を重視し市内の医療機関と協力し、往診での訪問診療を月1回取り入れることで現行の訪問歯科・訪問看護（リハビリ）に加えて医療面の充実をサービスに取り入れ日々のサービス提供に尽力させていただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

昔ながらの住宅に囲まれて施設前には静かに川が流れている。敬老の日には地域より利用者に商品券が送られ、また時折近隣住民より季節の野菜の差し入れが届くなど利用者は地域の目に守られながら、地域の住民の一員として安心して生活している。同一運営法人経営のデイサービスに併設する形で当該事業所がある為、職員の交流も頻繁にある。施設内では代表の介護に対する思いが込められた「5つの介護」の理念を共有し、体現している職員が利用者の希望を聞きながら3食手作りで食事を提供し、温かい食事を囲みながら笑顔と笑い声があふれている施設である。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護」と言う言葉をを5つに変換させた「5つの介護」を理念とし、管理者・職員の見えるところ（事務所）に掲げ共通認識としてその意識を持ち、日々のサービス提供の実践につなげています。	代表者が考案した「5つの介護」の理念を書類にして常に持ち歩き、支援の支えにしている職員もいる。職員会議でも職員同士言葉の意味を確認しあうなどして、代表者の介護への思いでもある理念を共有して支援に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年文化祭行事の参加、地区対抗運動会の招待、保育園への園児様への作品のプレゼントなどの交流時間を持つようにしています。	毎年地区で行われる文化祭に招待され、グループホーム利用者と共同で作品を制作し、今年は折り紙アートを展示している。また余った折り紙を地域の保育園に寄贈し、お礼に施設内で園児達が歌の発表会を開くなど地域との交流は密である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	上記交流を通じてを含め、運営推進会議に地域の方（区長・市民センター館長）に参加してもらい地域における認知症の方への事業所の支援・理解を持ってもらえるように定期的に実施しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には毎回必ず家族代表・まちの保健室の方には参加を要請していただき。良い事と悪い事を報告し、取り組みや評価を家族当事者として公平な外部者としての意見や相談を話し合い以降の更なるサービス向上につなげる努力をしています。	運営推進会議は家族も毎回順番で参加してもらい、隔月に市・地域包括センター・まちの保健室の看護師等の出席がある。ヒヤリハットを議題にして様々な意見を出してもらい支援の改善に役立てるなど、サービス向上に役立てている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからない事や疑問に思う事は直ぐに名張市の高齢障害支援室担当者に出向き話をする事をしているので空き部屋が出た場合など積極的に高齢障害支援室、地域包括支援センターへ行き空き部屋状況などの情報交換をしています。また、定期的に市より介護相談員の訪問があり事業所の実情をみてもらっています。	空き部屋の状況や、市役所が近くにある為市の高齢障害支援室に現況を伝えに行ったり、わからないことがあると直接伺うようにして情報交換するようにしている。また2か月に一度介護相談員を受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	昨年同様本年も身体拘束の実施の有無に関する取組報告書に加え拘束の適正化に関する考え方と併せて明文化した書類を作成し日々の業務に身体拘束のないサービスに取り組んでいます。	3か月に一度身体拘束等の適正化委員会を開催している。職員会議でも指針を元に議題に取り上げ、スピーチロック・施錠をしない支援等を職員同士で確認しあい、理解を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修や職員会議などで虐待の種類や言葉の使い方など話合い虐待の見過ごし注意を心掛けるように最善の防止に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年入所された方が生活保護停止に伴い成年後見人制度を申請することとなり事業所と名張市（権利擁護担当者）と協力し、家庭裁判所への申請から行政手続きを代行させていただきました。それらを踏まえ職員には直に学ぶ機会を持つことができ、定期的に訪問してくれる成年後見人とも接する機会を持てている事は貴重であると思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時は同書を照らし合わせわかりやすくご理解して頂けるように配慮しています。また、個人情報同意書の添付作成など質問等お互いが納得できた形式にて今現在までの契約に至っています。また、契約書と重要事項説明書を1冊の製本にまとめることで煩雑さを軽減した契約書に仕上げ各部が紛失しないように配慮をしている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に必ず家族様の参加をしてもらう1つの目的として外部者への当事業所の情報を発信してもらう事があり、それらを運営に直結することを職員にも意識してもらっています。また、余談ですが以前に入所されていたご家族様からの紹介で入所された事例がありました。	利用者とは日常の会話や入浴時の会話などから意見を職員が聞くようにしている。家族からは面会時・運営推進会議出席時や後に、代表や職員が意見や提案を聞く機会を設けている。またその際の内容は連絡ノートに記載し、職員同士共有している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	開所以来定例職員会議を開催し管理者・介護職員・看護師の各職所からの意見や提案を話し合える時間を持っています。また、新規入所者様がある場合も臨時職員会議を設けて以降の支援方法など話し合っています。	毎月職員会議を開催し、代表は職員の意見を聞く機会を設けている。また日頃から代表や管理者に話しやすい職場環境で、職員の提案によりテーブルのレイアウトをして利用者の気分転換に役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修への参加、上級資格取得への支援など個々の努力に対しての評価や有給休暇の積極的使用を啓発を実施しています。また、就業規則での明文化をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各研修・資格取得への積極的取り組みは毎年実施しています。今年は「認知症介護実践者研修」「介護福祉士受験」の参加挑戦の取り組み。また2名の介護福祉士の合格者を出すことができました。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年実施していますが、今年も通所系事業所のリハビリ型通所介護事業所との交流を通して、当事業所のないソフト面の取り組みやサービス内容などお互いに情報交換をし互いのサービス向上にむけた活動をしています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人に会い（面会）どのよう性格かどのような家族関係かなどの情報を得て全職員を話し合い初期の支援策や関係づくりへの材料を思案し本人様・家族様に安心していただける関係づくりに尽力しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が遠方にお住いの方が数組おられます。そのご家族様には不安のないように詳細な情報をお伝えし、季節の節目に会いに来てもらうようにお伝えしています。医療面に関しては特に要望があるので服薬剤や診察結果のどは細かく話せる（伝えられる）ようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護面・生活面・医療面と各分野を介護職員、管理者、看護師、と相談し初期対応に努めています。入所者様家族の要望で週3回デイケアサービスの利用希望があり事業所としても家族様の要望に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入所者様が日常生活をする上で職員が個々の能力を考慮し洗濯物の整理や部屋の片づけなどできる範囲での暮らしの中での支度は協力してもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	契約時に事業所からのお願いとして、入所されたらそのままで1度も会いに来ないようなことがなく定期的に本人と会い事業所の雰囲気・環境を見ていただき職員と会話をする機会を持ってもらうように伝えています。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	GWやお盆休みに家族様との外出をしてもらい今まで馴染みの場所や人と会えるように提案をさせていただいています。また、その際の薬管理方法や支援方法などの助言にも努めています。	孫の面会を受け入れたり、墓参りの付添をしている。また年賀状のやり取り支援もしている。自治会主催の敬老会のイベントに家族と共に出かけ、地域の方々との出会いで新しい馴染みの関係ができている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂での座る場所を個々の性格や要介護度などを考え座ってもらい、創作品を共同作業で作る場合や演奏会などがある場合に協力・助け合えるように環境演出に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りをさせていただいたご家族様から後日ご挨拶に来ていただき思い出話など良い関係を持てています。また、以前入所されていたご家族様からの紹介で入所に至った方など契約終了後の関係性も大切にしています。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1日の大まかな時間の流れはありますが個人の時間を束縛することなく趣味の時間や自室での時間、みんなでテレビを見る時間などお好みで有効に過ごしていただいています。	介護度の軽度な利用者の方が多いため、普段の会話や入浴中のほっとした空間の中での会話などから本人の意向や思いを把握するようにしている。またその内容は連絡ノートに記載して職員同士共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活環境や家族環境などの違いをくみ取り社交的な方やそうでない方の自尊心を把握し入所者様の気の使いやストレスのないように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	身体的な情報は訪問リハビリ、医療面では往診医師、身体面では介護職員・看護師と各方面での情報を把握しその人の心身状態の支援に役立てています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護記録書を365日記録し会議等で話し合い上記同様各方面での情報を把握し共通認識としてグループホーム生活での介護計画の作成の反映しています。	家族や本人の意向を取り入れながら、管理者・担当者・看護師らが参加するサービス担当者会議を経て、アセスメントシートを作成、介護計画を作り1年に一度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は開設以来変わらず基本的には介護記録書は、使用様式を2部制を採用し1日の身体状況を常に記載し、一人一人ファイル保存しています。また、職員間では職員ノートを設け日常の引継ぎ（申し送り）をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の要望（ニーズ）に週3回の人工透析の送り迎え。また他の方は週3回のデイケアサービスの利用と言った要望を柔軟に受け入れサービスの利用も多機能化に取り組んでいます。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭りの獅子舞の訪問は毎年地域の方が訪問していただき披露してくれます。縁起の良い催しに入所者様・職員・地域の方の充実した取り組みを提供できていると思います。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今年より地域医療の強化推進として市内の医療機関の協力の元訪問診療（往診）を開始しました。入所者様の院内での感染や気候の変化による体力疲労等を踏まえた事と直接職員が医師に相談できる環境を考慮して事業所内医療の促進に努めています。	今期より利用者・家族の同意の元、協力医がかかりつけ医となり訪問診療を開始し、24時間体制で利用者の健康管理している。また歯科衛生士による口腔ケアを月1回受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護体制については事業所所属の看護師と医療連携の訪問看護と二面から身体状況・服薬管理・生活指導等の相談体制をとり、往診時の診療を有効にできるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は事業所独自の「緊急入院対応」様式を活用し、職員が直接入院先に足を運び入所者様の詳細な情報を提供をし的確で安心した治療を受けられるように体制を整えています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様と早期に相談し、意見や事業所内での対応を往診の医師との連携をもって取り組んでいます。以前に事業所内で看取りをさせていただいた時も医師に連絡し迅速に来ていただき大きな困難もなく対応ができました。	契約時に、家族には重度化した場合や終末期のあり方を説明し了解を得ている。職員は終末ケア・緩和ケアの講習に参加し、その内容を職員会議にて報告し共有している。また、協力医の医師と連携し看取りにも対応している。	本人・家族の意向は現在の状況で変わってしまったり、思い違いも起こりやすいので、その内容を共有できる契約書の作成・保持と、その時々に段階を経た話し合いが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	下記の記載と重複致しますが、今年は職員の緊急対応、事故発生対応の訓練に重点を置き消防署員、防災士を招いての応急手当の実践訓練と講義を受けました。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年避難訓練や消火訓練を実施していましたが今回は職員を対象とした災害所の対処方法を他事業所と共同にて防災士を招いて講習並びにADLの実習、応急処置の実習を訓練いたしました。また近隣の方の参加もありました。	地域の一員として防災士を招いて地域住民参加の下、ADLの講習・応急処置の訓練を実施した。災害の停電を想定し、水・食料等を3日分備蓄している。避難訓練・防災訓練は早急に今後実施予定である。	災害はいつ起こるかわからず、夜間時の災害も含めて職員の迅速で正確な行動は欠かせない。そのためには職員が訓練を重ねて不安を取り除き、やるべき行動を共有することが大事であるので、早急な訓練実施を希望する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	性格・人格を尊重し個々の自尊心を傷つけないような目線や対応に心掛けています。特にそれぞれの機能能力や個性（得意分野）を考えて対応するように心掛けています。	入浴は男女別の日にし、排泄の声掛けも配慮して行うなど利用者を尊重し支援している。今期は新しい利用者が入居されたため、職員の気づきは業務記録ノートに記載し職員同士情報を共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入所者様の個々の生活リズムを崩すことなく日中の時間を有意義に使ってもらいます。自室にてテレビを観たり、趣味の工作（折り紙アート）をしたりとそれぞれの自己決定での生活をしてもらっています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、例えば就寝時間など食堂でテレビを観ていたり、早々に自室に入り身支度をしたりと一人一人のペースを見守り意思を尊重するようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人の入所者様は家族様と一緒に出掛ける際は服装や帽子など選んで出掛けたり、違う方はデイケアサービスに出掛ける際にオーデコロンをつけて出掛けたりと整容に関しての支援をしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入所者様の個人的な食事制限や食事形態はありますが行事の際の好みを聞いての献立や誕生日の際のケーキなどの提供を楽しみにしておられます。	利用者の楽しみの一つである食事は、職員が食材をそろえ、近所からの差し入れの野菜や家庭菜園で取れた野菜などを使っている。利用者の希望を聞きながら献立を考え、三食手作りで提供している。買い物に同行する利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理の制限のある入所者様には病院からの連絡票を作成しそれを連絡ツールとして利用することで栄養指導・水分制限等の管理をさせていただいています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	事業所内での食事後の歯磨きをはじめ定期的に訪問歯科による口腔ケアの実施に努めています。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄介助の要する方は一部で多くの方は自分でトイレに行き排泄をしてもらっています。入所者様の中には布パンツで生活をされている方もいます。	ほとんどの利用者は排泄は自立されている為、職員は排泄記録に基づいて利用者ごとに定期的に声掛けし、トイレ誘導して自立された排泄が続けられるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	あらかじめ医師や看護師と相談して個々に合わせて数日間便秘気味の方には便秘薬の服薬や食事制限のない方には便通の良い食べ物の提供に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は体調の悪い方以外は基本的に週3回（月水金女性、火木土男性）として入浴をしていただいています。行事イベントごとの際は曜日を変えての入浴を提供しています。	週3回男女別に午後入浴している。特に一人の入浴時間を定めることなくゆっくり入浴してもらっている。また一人ずつお湯を入れ替えその間にバイタルチェックを行い、利用者の体調を把握している。しょうぶ湯・柚子湯で季節を味わい、楽しく入浴できる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夕食後からは特に時間を設けることなくそれぞれリズムに合わせての時間を過ごしていただいています。自室にてテレビ鑑賞をする方、身支度をする方、食堂で新聞を読む方、就寝する方それぞれです。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理は看護師がチェックし個々の服薬ボックスに朝・昼・夕ごとに配薬し飲み忘れがないようにしています。服薬の症状なども看護師と話し合い家族様に伝え支援する流れとしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌の得意（好き）な方、創作品作成が得意（器用）な方などそれぞれの分野の得意不得意を入所者様同士協力してのレク時間を設けています。中には職員が教えてもらう事もあり入所者様が得意気な表情で対話しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏場や冬場は除き事業所の前の川沿いを（職員同行で）散歩したり、玄関前にいすを並べて日向ぼっこをしたり、家族様と出掛けて食事に行くなどの支援を積極的に支援しています。	午前中時間があると週2回ほど事業所前の川沿いの道を散歩している。また月2回ほど近接のデイケアサービスで開催される音楽イベントに参加している。季節には青連寺湖に花見がてらドライブに出かけたりしている。家族との外出、地域行事への参加も利用者の楽しみとなっている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に本人並びにご家族様からのご理解の了承のもと、金銭トラブルのないように当事業所での金銭所持はご遠慮していただいています。また一部の利用者様は管理可能であるとご家族様と話し合い所持してもらっています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様より孫様の誕生報告や以前には利用者様の若い日の写真が届いたりもしました。また、遠方に住むご家族様からの手紙も時々あります。本人より電話をすることはありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物のつくり設計が木材の素材をそのまま活用しているため事業所内が明るくまた一列平行に居室・食堂は配置設計されているので比較的死角の少ない作りになっています。事業所内には季節のイベントの写真を掲示し施設内の季節感を演出しています。	玄関に入ると木材の新鮮な香りがして心地よく、建物全体の床に使われている木材素材が清潔で明るい印象を強くさせている。空気清浄器兼加湿器が2台稼働し、温度管理もされて健康にも配慮されている。居間の壁や棚には利用者が作った折り紙細工がきれいに並べられて季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活支援で以外と一番悩む事柄になりますが、入所毎に出来るだけ相性や話の合う者同士間の居場所空間を配慮したテーブル座席の配置とそこに職員・訪問の際にご家族様も入れるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はプライベート空間であると事業所全体に周知し、本人や家族様にもそのようにお伝えし、個人的な備品を持ち込んでもらっています。同じつくりの居室もそれぞれ好みの部屋となっています。	ベッド・整理棚が備え付けで、そのほかは利用者各々自由に持ち込んで利用している。家族との記念写真や折り紙細工を、壁に貼ったり棚に置いたりして、利用者それぞれの居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	清潔な空間を提供できるように掃除機は毎日かけるように心掛けています。安全な生活を提供できるように物の配置を煩雑にすることなくわかりやすさを考えるようにしています。		